

つみきのくらし

NO.41

日々の暮らしの中で、こども園つみきとして大切にしたいことや、こどもの素敵な姿をお伝えしていきます。



大浦 久子

ロフトについて考える

こども園つみきにロフトが出来てから5年目になりました。どの部屋のロフトも、子どもたちがそこで思考・試行錯誤し共に過ごしてきた愛着のある空間です。たくさん子どもたちに愛された証が木のつやとなり、触り心地も滑らかに変化しています。しかし、初めてつみきでロフトを見た方は、「面白そう!」と同時に「あぶくないの?」という印象を持たれた方もいらっしゃるのではないのでしょうか? そのお気持ちにお応えするべく、なぜ あえて挑戦する環境を用意しているのか、何を大切にしたいのかお伝えします。

頭が挟まる、首をつらない
ような隙間の構造・配慮

のぞいて転落しない、おもちゃを上から落とさないことから登れないようところどころにアクリル板を貼っています。

ロフトに自力で登れなくても、

- ・大人は手伝わない
- ・過剰に応援し興奮させない(自力で登る体力・判断力が大切)

登れたという結果も大事ですが、その過程での学びは(危険察知や注意力、粘り強さなどは自身の「生きていく力」につながっているため)特に大切にしています。保護者の方もご協力お願いいたします。

ホールロフトの経緯

かつてクラスの数が部屋の数より多かった時代に年長組がホールを拠点に過ごしていました。

ただ広いホールでは落ち着かないことや、作った製作物が小さい子に壊されず遊びに集中できるよう年長児の遊びの保証ができる空間づくりが始まりました。

今は、異年齢で過ごす空間を小さい子も楽しめるようテーマの変化とともに形をカスタマイズしています。

大けがにつながりにくい対策として、木製の受けを置いています。

登ってほしくないと感じる場所には緑をまいたり触り心地が悪いなど、子どもたちが登りたくない工夫をしています。

子どもたちのやってみたいを見守る保育者の在り方の質も大切になってきます。改めて、保育者は子どもの遊び(やってみたい)をじゃましない距離感で、危険が起こりそうなタイミングを把握し声掛け・対応が行えるよう心がけていきます。

怖いと感じることは大事なこと

たとえば…

ツルツルアイスバーンの日に車で買い物の用事がある場合、買い物に行くミッションをこなすために、自分のスキルに合った選択を大人は考えます。①行く時間を変更する ②歩いて出かける ③バスを使う ④ゆっくり慎重に運転 ⑤ネットで注文など…。ツルツル路面を経験(知っている)しているからこそ、それを回避する自分に合った方法を選択できると思うのです。子どもたちは今、自分たちの興味関心からできるようになること、それに向かって考えたりすることと一緒にハラハラする経験も同時にしています。痛いことを経験すると、それを避けるために慎重になります。怖いと感じることは、自分の身を守ること。だから立派な選択肢の一つです。